

第65回



品質月間

2024年11月1日～11月30日

テーマ

●原点回帰! 品質と信頼で築く 豊かな社会

Back to the Basics! A Prosperous Society Built on Quality and Trust

品質月間(Quality Month)を迎えて

昨年から今年にかけて、株高、マイナス金利政策からの転換、賃上げ、インフレ傾向など、社会的な経済の動きは、新しい局面を迎えつつあります。これが、経済の発展とともに豊かな社会を生み出すことになるのか、産業界にとって重要な転換期にあるといえます。このような転換期にこそ、確かな品質を創造していくことが、組織には強く求められています。それによって顧客の信頼を勝ち取ることができれば、失われた30年からの脱却も可能になると思われま

す。しかし、残念ながら品質不祥事の問題は継続して発生しており、信頼回復への道筋はまだ見えていません。また、品質不祥事だけでなく、働き方改革、職場での心理的安全性の確保、COVID-19後の生活様式の変化への対応等、新たな課題にも対応しつつ、新時代に適合した品質創造のあり方を追求しなければなりません。失われた30年からの脱却というチャンスを逃さないように、確かな品質を創造するにはどうすればよいか、しっかり考える必要があります。

そこで、今年の品質月間では、「原点回帰! 品質と信頼で築く 豊かな社会」というテーマを設定しました。「原点回帰!」は、昨年もテーマの中に盛り込みました。これは、顧客を満足させる品質を創造するには何をすべきかを、あらためて見つめようというメッセージです。「品質と信頼で築く」というのは、ごくごく当たり前に行うべきことで、目新しさはないと思いますが、この転換期に行うべきことを端的に表していることばです。顧客の信頼を得ることなしに、豊かな社会は作れないと思います。このような転換期こそ、着実に守るべき普遍的な考え方を大切に、確かな品質創造を実践していきましょう。今年の品質月間では、豊かな社会への次の一歩を踏み出したいと思

第65回品質月間委員会
委員長 棟近 雅彦(早稲田大学 理工学術院 教授)

品質月間委員会

委員長

棟近 雅彦 早稲田大学 理工学術院 教授

副委員長

金子 雅明 東海大学 情報通信学部
情報通信学科 教授
高倉 宏 トヨタ自動車九州株式会社
TQM推進室 室長

委員

伊藤 桂一 株式会社日立製作所
モノづくり戦略本部 部員
金子 靖 NECプラットフォームズ株式会社
CS品質推進本部・品質推進統括部
エグゼクティブエキスパート
川合 拓 株式会社竹中工務店 経営企画室
TQM推進部 TQM推進部長
佐野 雅隆 拓殖大学 商学部 経営学科 准教授

沢 茂樹 株式会社リコー プロフェッショナルサービス部
品質統括センター-QM推進室 エキスパート

高橋 純一 JSR株式会社 製品・品質保証部
部長

富永 雄二郎 本田技研工業株式会社 品質監理部
品質システム教育課 課長

新倉 健一 インフロンティア・ホールディングス株式会社
経営監査部

磯貝 高行 株式会社日本経済新聞社
編集局ビジネス報道ユニット グループ長

丸山 一彦 和光大学 経済経営学部 教授
森田 晶彦 株式会社IHI 高度情報マネジメント統括本部
セキュリティプロジェクト部

山口 由貴子 品質保証グループ グループ長
株式会社LIXIL 安全・品質統括部
品質企画部

吉田 靖 花王株式会社 技術開発センター
品質技術グループ グループ長

吉水 健二 アサヒグループジャパン株式会社
SCM部 シニアマネージャー

主催団体 委員

小野寺 将人 (一財)日本科学技術連盟
専務理事・事務局長
下境 健一 (一財)日本規格協会 業務執行理事
丸山 範久 日本商工会議所 事業部長

後援団体 委員

田中 大輔 (一財)日本消費者協会 事務局長
柳本 直行 (公財)日本生産性本部
参事 経営品質協議会事務局長/
日本経営品質賞委員会事務局長

(敬称略 五十音順 ※但し、委員長、副委員長除く)

掲載している情報は2024年8月1日時点のものです。

主催

品質月間委員会 一般財団法人 日本科学技術連盟
日本商工会議所 一般財団法人 日本規格協会

後援

NHK 一般社団法人 日本品質管理学会 公益財団法人 日本生産性本部
一般社団法人 日本能率協会 一般財団法人 日本消費者協会 QCサークル本部
一般社団法人 日本経済団体連合会 一般社団法人 品質工学会

品質月間ホームページ(<http://q-month.jp/>)もご参照ください

品質月間特別講演会

講演概要

- 今年度もZoomによるオンライン(一部動画配信)で開催いたします。
- PC、タブレット、スマートフォンからご参加いただけます。
- 日程、講演内容は準備でき次第、順次品質月間サイトへ掲載予定です。
(詳しくは月間サイトへ <http://q-month.jp>)

参加申込要領

【参加料】 1講演 ¥2,200(税込)

品質月間テキストの料金は含みません。テキスト購入サイトよりご購入ください。

【申込方法】

JSA Webdesk からお申込みください。

トップページ(<https://webdesk.jsa.or.jp>)
セミナー・説明会 公開セミナー
または、「日本規格協会 品質月間セミナー」で検索

お申込みいただいた方には、受講のご案内(請求書、開催案内等)を原則開講1か月前にお送りいたします。請求書受領後請求書に記載の期日までにお振り込みをお願いいたします。
動画配信については、申込受付完了メールとは別にメールにて動画視聴のご案内をいたします。請求書は別途お送りいたします。
定員になり次第、お申込みを締め切らせていただきます。
詳細はウェブサイトをご覧ください。

【キャンセルの取り扱いとお願い】

キャンセルの場合は開催1週間前までに Webdesk「お問い合わせフォーム」によりご連絡をお願いいたします。ご欠席の場合は返金をいたしませんので、代理の方のご出席をお薦めいたします。なお、キャンセル・ポリシーは以下の通りです。

ライブ配信
教材受領後のキャンセルは一切受け付けません。
受講料全額(100%)のキャンセル料を申し受けます。

動画配信
申込後のキャンセルはできません。キャンセル時は、受講料全額(100%)のキャンセル料を申し受けます。

【ライブ配信について】

ライブ配信 セミナーでは、Zoom Web 会議サービスを利用いたします。

<動作環境>
受講用パソコン及びモバイルの動作環境については、Zoom の最新のシステム要件をご確認ください。
<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>

受講前にこちらをご確認ください。
https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/seminar/kensyu_kaijyo/live1.pdf

第65回 品質月間資料申込書

年 月 日

郵便番号	電話番号	()
住 所		
ふりがな 社 名	事業所名	
部 課 名	ふりがな 氏 名	印
メールアドレス		

※表示価格は税込(10%)です。

品 名	コード	定価(税込)	部 数	金 額
テキスト No.471	21080	627円		
// No.472	21090	627円		
// No.473	21100	627円		
// No.474	21110	627円		
// No.475	21120	627円		
// No.476	21130	627円		
// No.477	21140	627円		
※テキスト No.471~477(1セット)	21150	3,762円	セット	
標語 (5枚1組)	19023	330円	組	
胸章 (10個組)	19093	583円	組	
// (50個組)	19101	2,783円	組	
ポスター A	19152	385円		
ポスター B	19162	385円		
ポスター (2枚セット)	19011	627円	組	
Q 旗 A1	19031	2,530円		
// A2	19041	2,530円		
// B	19051	2,277円		
// 特大	19061	4,389円		
垂 幕 Aセット	19071	4,664円		
// Bセット	19081	4,664円		
垂幕生地 A	19401	2,783円		
// B	19411	2,783円		
垂幕用鉄製パイプ	19391	1,881円		
のぼり Aセット	19202	7,535円		
// Bセット	19212	7,535円		
// Cセット	19272	7,535円		
のぼり生地 A	19241	1,881円		
// B	19251	1,881円		
// C	19261	1,881円		
のぼり用ポール	19281	1,265円		
のぼり用置き台	19291	4,389円		
卓上のぼり	19221	2,530円		
小 計				
送 料				550円(税込)
合 計				

※上記価格には10%の消費税が含まれております。

ご注意：納品は9月下旬～10月中旬の予定です。

送 料：下記の表以外は各月間資料の価格に送料を加算してご請求させていただきます。なお、送料欄に表示の金額は2024年12月末までとし、以後は実費をいただきます。

送料サービス			
テ キ ス ト	100部以上	垂 幕	15セット以上
ポ ス ター	200枚以上	胸 章 (1 0 個 組)	100袋以上
標 語	100組以上	胸 章 (5 0 個 組)	20袋以上
Q 旗	10枚以上		

株式会社 日科技連出版社 営業部 販売管理課

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-7-4 渡貴ビル

TEL 03(6457)7875 FAX 050(3852)3820

<https://www.juse-p.co.jp/>

Eメール q-gekkkan@juse-p.co.jp

ご注文はFAXが便利です。

FAX : 050(3852)3820

■個人情報の取り扱いについて：ご記入いただいたお客様の個人情報は、今後の新刊・雑誌等のご案内に利用させていただくことがございます。また、その個人情報は、弊社において法令及び内部規則に基づき厳重に管理いたします。

第65回目を迎える品質月間では、次の7冊のテキストを販売いたします。

仕事に役立つ知識や事例がたくさん詰まっています。是非、皆様のスキルアップの一環として、あるいは品質活動に関する教材として品質月間テキストをご活用ください。

No.	対象	テキストタイトルと主な内容	編著者
471	トップ 部課長	<p>1.『全社で取り組む品質コンプライアンス 除 不正を引き起こす つのオーバーと止められない3つのバッド 』</p> <p>品質コンプライアンス違反となってしまった組織に共通している前提条件があります。品質コンプライアンス違反を引き起こす4つの条件と、違反を止められず継続してしまう3つの条件で、それぞれ、4つのオーバーと3つのバッドというキーワードで整理しました。本書は、これらの4つのオーバーと3つのバッドを取り除くことがまず大切で、さらに品質マネジメントシステムの強化の必要性を投げかけるものです。</p>	(一社)品質マネジメント 研修センター 代表理事 小 久貴 著
472	部課長 スタッフ	<p>2.『サービスエクセレンスへのアプローチ 新しいマインドセットの人づくりと価値づくり 』</p> <p>サービスエクセレンスの「基本規格(原則・モデル)」と、それを活動に展開するため「エクセレントサービスの設計活動」と「パフォーマンスの測定」に関する3つのコア規格と「事例集」ができあがりました。2025年春にはそのプロセスを明確に支援する、導入のためのアプローチと以下の二つの規格が完成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ISO/TS 19387:サービスエクセレンス-成熟度モデル(仮訳) ● ISO/TS 19390:サービスエクセレンス-ISO23592の実装アプローチ(仮訳) <p>このふたつの規格をうまく活用しながら、サービスエクセレンスのモノの見方・考え方ができる組織を実現していただきたいと考えています。顧客満足からカスタマーデライトへの変革に向けて、組織を強化していく活動を始めた企業事例などもお伝えします。</p>	東京大学 総括プロジェクト機構 特任教授 水 子 著 東京大学大学院 工学系研究科 人工工学研究センター 准教授 原 著 東京理科大学 創域理工学部 経営システム工学科 准教授 安 一 著
473	部課長 スタッフ	<p>3.『管理職のための「品質意識」のマネジメント』</p> <p>近年、経営理念に立脚した「品質文化」を現場で醸成させることの重要性が高まっています。本書では、日本能率協会総合研究所が自主研究した調査結果に基づき、「品質意識」や「品質文化」という点に着目して、品質不正が発生する背景と、マネジメント層と現場の意識の違い、品質不正の発生する組織的なメカニズム、不正リスク対応に向けた視点等を解説します。品質保証・管理部門、経営層にとってお役立ちいただけると幸いです。</p>	日本能率協会総合研究所 編、 代 田中 理 ・ 後藤 将和 著
474	部課長 スタッフ	<p>4.『カイゼンにおけるナレッジマネジメントと生成AI活用』</p> <p>旭鉄工とi Smart Technologiesでは、カイゼンを誰でもできるようにするために様々な施策に挑戦しています。その中の一つで、これまで個人持ちだったノウハウを共有しカイゼン人材を育てることに注力しています。本書では、ムダを見つけるための着眼点をまとめた「9つの上位概念」、改善アイテムの社内共有を行う「横展アイテムリスト」といったナレッジマネジメントや生成AIを用いたさらなるカイゼンの進化について話します。</p>	i Smart Technologies (株) 代表取締役 著
475	部課長 スタッフ	<p>5.『ものづくり企業のレジリエンス 生産管理から事業継続マネジメントまで 』</p> <p>気候変動による異常気象や地震・津波による自然災害、Covid19などの新興感染症といった事象に対し、企業として従業員、顧客や地域など様々なステークホルダーからの期待に応え事業の継続をする必要があります。企業が被災した場合に、効率的に初動対応と事業継続対応を遂行するためには平常時からの事業継続マネジメントが重要となります。そしてこの事業継続マネジメントは実は恒常的に製造業が行っている生産管理・品質管理の一部とも考えることができます。初動対応と事業継続マネジメント、生産管理と事業継続マネジメントとの関係性について専門家から紹介を行います。</p>	東京海上レジリエンス(株) 取締役 小野 高宏 著 (同)Office SRC 代表 田代 幸 著 (公財)日本生産性本部 主任経営コンサルタント 小 介 著
476	部課長 スタッフ	<p>6.『AIリスクアセスメント ガイドブック』</p> <p>AI技術の進歩により、AIを搭載した製品やサービスでの事故などAIの品質リスクが社会的な問題となっている。この問題に対処するため、日本品質管理学会はAI品質アジャイルガバナンス研究会を設立し、AIリスクアセスメントの手法の開発に取り組んだ。本稿では、AIを利用した製品・サービスでリスクアセスメントを広く実践と普及を目的として、AIリスクの管理に取り組む方、今後取り組む予定の方を対象にAIリスクアセスメント手法を解説する。</p>	(一社)日本品質管理学会 AI品質アジャイルガバナンス 研究会 編
477	一般	<p>7.『 10 QCサークル活動(小集団改善活動)の全国実態調査 時代の変化に対応し、60年をえて、小集団改善活動の継承へ 』</p> <p>新型コロナウイルスの影響や不安定な国際情勢なども含め、企業・組織を取り巻く環境が大きく変化していることに対応し、職場におけるQCサークル活動(小集団改善活動)も各企業・組織において、オンライン会合を取り入れる等、様々な形態で工夫した管理・改善の取り組みが展開されている。その推進方法と環境変化への対応を調査し、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①企業・組織が今後の活動の推進方法、方向性について検討する材料を提供すること ②QCサークル本部、支部・地区の活動や『QCサークル』誌の読者が展開している推進活動の一助にいただくこと <p>を目的に実施しております。</p>	QCサークル本部 編

※テキストのタイトル・編著者など一部が変更になる場合もございますので予めご了承ください。